

University of Shizuoka Magazine

 静岡県立大学広報誌

No.129

2015. June

はばたき

巻頭特集

新看護学部棟

小鹿キャンパスに完成

INTERVIEW

鬼頭 宏 新学長

PICK UP

ホームステイレポート

CONTENTS

- p01 | **・巻頭特集**
新看護学部棟小鹿キャンパスに完成
- p05 | **・インタビュー**
鬼頭宏新学長
学生インタビュー
- p07 | **・キャンパストピックス**
平成27年度入学式
木苗前学長感謝のつどい
就職内定率99.8%を達成
ネパール大地震募金活動
平成27年度開学記念行事
リスク評価研究会
- p11 | **・地域・産学連携**
COCキックオフセミナー開催
「ふじのくに」みらい共育センターを開設
- p13 | **・学生の日々・学生の課外活動報告**
静岡県立大学テレビ
- p14 | **・PICK UP**
ホームステイレポート
- p15 | **・図書館だより**
図書館からのお知らせ
シリーズ「私の一冊の本」
- p16 | **・教員・学生の受賞報告**
- p17 | **・フーマネラボの体においしい**
ヘルシーメニュー
- p18 | **・Informaiton**
教員人事



表紙写真:新緑の谷田キャンパス

巻頭特集

新看護学部棟

小鹿キャンパスに完成!

谷田と小鹿の
2キャンパス制に

平成 25 年から小鹿キャンパス内に建設を進めてきた新看護学部棟がこのたび完成し、看護学部は、この春から谷田と小鹿の二つのキャンパスでの学びが始まりました。今号の特集では、新棟の施設設備をご紹介します。



谷田キャンパスの象徴である赤レンガのイメージを引き継ぐアカデミックな雰囲気の外観。反対側から見ると、異なる印象の造りとなっている。

医療高度化に対応—地域社会の要望に応え得る人材の育成

近年の少子・高齢社会の進展、人々の健康志向の高まり、医療の高度化と専門化など、保健医療を取り巻く状況の変化とともに、看護職の必要性・重要性はますます高まっています。

こうした状況に対応するため、本学はこれまで小鹿にあった短期大学看護学科を4年制看護学部へ統合し、昨年度から、看護学部の入学定員をこれまでの55名から120名に増やしました。学部の拡充に伴い、より質の高い看護教育を行うための施設設備を整えるべく、平成25年9月から、短期大学部のある小鹿キャンパスに、新棟の建設を進めてきました。新棟には、120名の演習に対応できるばかりでなく、最新の医療を学べる施設設備を整えています。

学生は、全学共通科目や看護の基礎となる科目を谷田キャンパスで学び、小鹿キャンパスでは、演習などの看護の専門科目を学びます。1、2年次は、谷田と小鹿の両キャンパスでの授業、3年次からは小鹿が拠点になります。2キャンパス制により、総合大学としての強みである学部を越えた交流や連携を図る環境が生まれます。これにより、学生たちは、主体的に考え行動する力やコミュニケーション能力など、看護職に必要な専門的な知識・技術と人間性をより豊かに、深く磨くことができます。



2階の廊下は全面ガラス張り、明るく透明感のある空間となっている

医療福祉の教育拠点としての発展

1987年の開学以来、本学は地域社会の要望に応え得る人材の育成に努めてきました。看護学部の新たなスタートにより、短期大学の歯科衛生学科、社会福祉学科と合わせ、小鹿キャンパスは医療福祉系専門職の育成の教育拠点として、今後さらなる発展が期待されます。高度な看護教育を目指し、地域社会の要請に応え得る看護師の育成に取り組むとともに、地域の保健医療に教育・研究の成果を還元していきます。



グラウンドから眺めた様子。正面のレンガ色とは対照的に、白を基調とした外観となっており、短期大学部のある教育棟(右建物)等の既存校舎との調和が考慮されている

オープン記念式典を行いました



テープカットに臨む(左から)文部科学省齊藤しのぶ氏、本庶佑理事長、川勝平太静岡県知事、木苗直秀前学長、式守晴子看護学部長

平成27年3月18日、新看護学部棟の完成を記念して、関係団体や地元自治会等を招いてオープン記念式典と

内覧会を行いました。当日は来賓の川勝平太静岡県知事が祝辞を述べるとともに、文部科学省高等教育局看護教育



内覧会の様子

施設設備の紹介



1F カレッジホール

セミナー室

コンピューター室



2F 実習室1(基礎看護)

実習室2(成人看護)

クリーンルーム

シミュレーションセンター



3F 実習室3(在宅・老年・地域・精神看護)

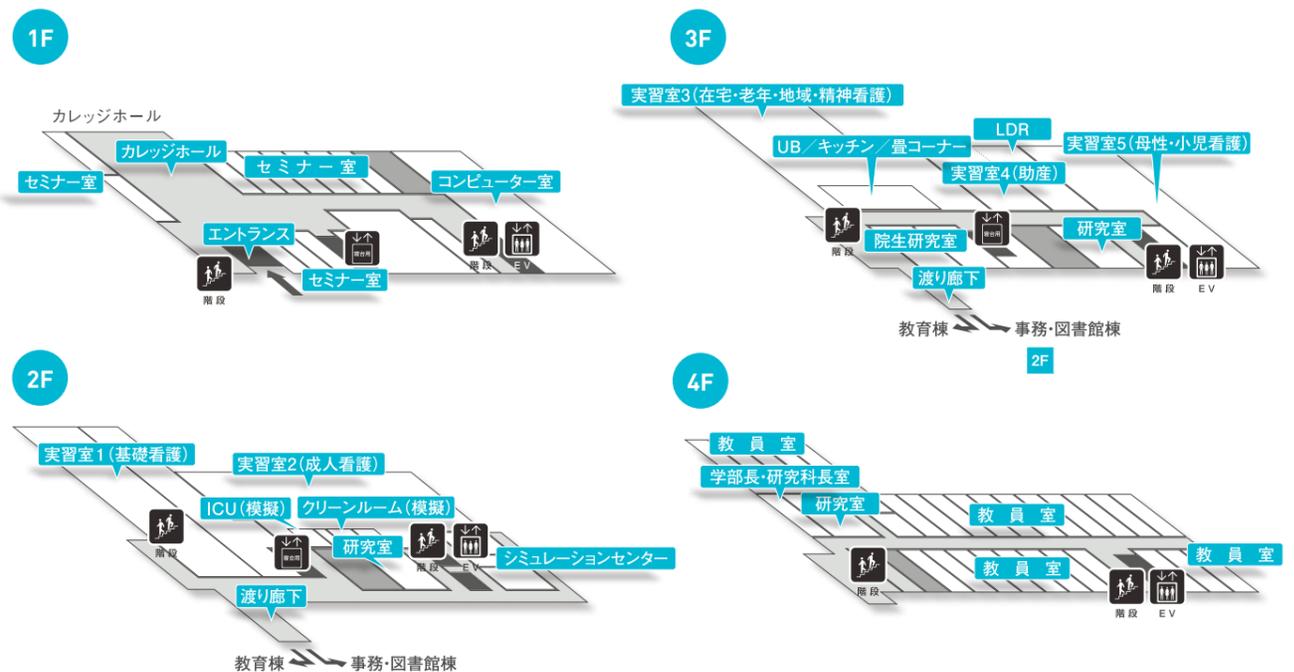
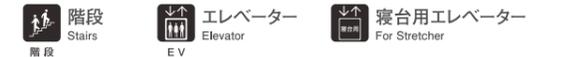
実習室4(助産)

実習室5(母性・小児)

病棟、分娩室、在宅療養者の自宅を模した各実習室のほか、セミナールームやコンピューター室を備えました。実習施設は、シミュレーションセンターや模擬ICUなどを配置し、より臨床現場に近い教育環境を整えています。

フロアマップ 建物概要

構造	鉄骨造 4階建
建築面積	1,957.62㎡
延床面積	6,298.42㎡



INTERVIEW 鬼頭 宏 新学長

今年度より本学学長に就任した鬼頭宏学長に、国際関係学部の学生が、人口問題や地域課題への取り組み、学生への期待について話をききました。



中山間地域、若者の流出 —静岡県の人口問題

鬼頭学長 私は歴史人口学が専門で、昨年は「静岡県人口減少問題に関する有識者会議」の座長を務めたのですが、お二人は授業で県内の限界集落を訪れたと聞いています。

二條さん 「社会調査法」という授業で、静岡市北部の玉川地区へフィールドワークの実習に行きました。

鬼頭学長 私も学生時代に周辺を訪れたことがあります。進学した大学で「児童文化研究会」というサークルに入り、都内の子ども会で子どもたちと遊ぶ活動のほか、静岡県や長野県など、地方に赴き人形劇を見せたりしていました。

二條さん 当時は中山間地域も子どもが多かったのでしょうか。

鬼頭学長 そうですね。当時は出生率の低下もまだ深刻な問題ではありませんでした。高度経済成長期の終わり、60年代後半頃のことですが、地域社会の基盤がしっかりしていました。

二條さん 学長が仰る「地域がしっかりしてい

る」とは、どういう状態ですか。

鬼頭学長 まず、子どもたちがいること、そして産業があることです。当時回った農山村の地域は大都市と生活様式は全く違っても、伝統的な暮らしがきちんとできていた。限界集落なんて言葉はありませんでした。

今春、総務省が公表した人口推計では、静岡県はまた人口が減ってしまいました。あるとき乗車したタクシーの運転手さんに尋ねると、「静岡には雪と仕事がないから」なんて仰っていました。「若い女性が出て行ってしまう」とも。これは事実で、人口流出を年代別・性別ごとに比較すると、20代前半の転出が多いのですが、女性の流出は男性の4倍に上ります。お二人はこの年代ですが、どう思いますか。

兼子さん 確かに、高校時代の友人も就職を機に県外へ出ています。

鬼頭学長 都心の華やかなオフィス街に憧れる人もいるでしょう。大企業のビルが集中し、働く女性たちをターゲットにした商業施設も多くある。

二條さん 企業見学で丸の内を訪れたことがあります。地方にはない場所ですね。

鬼頭学長 しかし（若い女性の流出は）果たしてそれが原因か、もっと根本にあるのではな

いかとも思います。ライフスタイルの中で何を重視するか、あらためて考え直すべき時期を迎えているのだと思います。

大学と学生が、 地域のためにできること

鬼頭学長 昨年、本学は文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC)」に採択されました。静岡県、静岡市、牧之原市と連携し、学生と教職員が、地域住民と協働して、地域の課題に取り組み、健康づくりと地域づくりを推進していくものです。この春から牧之原市役所でサテライトオフィスの運用が始まり、コーディネーターも派遣されましたが、お二人は何か関わっていますか。

二條さん 牧之原市のコーディネーターの方とお話する機会がありますが、非常に面白いです。市民のファシリテーター養成もしていて、進んでいると思います。

鬼頭学長 小学校単位で各集落を回って地域の方の話を聞き、地域が抱えている問題を調査しているそうですが、そういう文化が牧之原市にはもともと根付いているようですね。これからの地域計画には、知識量の多少にか

かわらず、様々な立場の人が集い、互いの立場に立って時間をかけて熟慮して物事を決めていくことが重要になってくるでしょう。

今年3月、国では、地方創生の司令塔となる「まち・ひと・しごと創生本部」から各都道府県に対して、人口減少の抑制と地方活性化に向けた「地方版総合戦略」の策定を努力義務とし、静岡県でも、県民会議が立ち上がりました。この場に、県内の大学生が参加してくれることになったのは良かった。若者に自治体の計画に企画立案する過程から参加してもらいたいし、むしろ彼らを中心に考えてほしい。それで地元への理解や愛着が深まるでしょうから。また、地元でずっと留まる必要はありません。県外や海外で経験を積んで、成長していつか帰って来てもらえればと思います。

人がいなければ社会は崩壊してしまいます。小さくても、ユニークで快適なまちづくりをしていきたい。具体像は、これから皆さんとともに考えていきたいです。すでに大学周辺の草薙などの地域でもそういった取り組みが行われていますが、学生には、積極的に参加して、地域基盤を地元企業や地域の人と作ってもらいたいと思います。

学生へ期待すること

鬼頭学長 若者にはもっと自分の人生を肯定的に捉えてもらいたいと感じます。謙虚というか、自己評価が厳しいですね。幸福度指数も低い。今の社会や経済状況に満足しろと言っているわけではありません。足りない部分は努力目標にすればいい。だから、学生にはまず自信を持ってもらいたいのです。それと、自らの考えで行動すること。そうした自立した学生を育てることが、大学の役割だと思っています。

本学の学生は、真面目で素直だと企業から評価を得ており、それが高い就職率にも反映されているわけですが、本人にとっても社会にとってもそれで十分なのでしょうか。皆さんが、会社や組織の経営を任せられる年齢になったとき、指示を待ち、言われたことだけをやるのではなく、新しい発想で新しいことを、現状をつきやぶるような力を持って行動することが必要です。未来をつくる、現状を変えていく力を期待しています。

二條さん・兼子さん ありがとうございます。

Interviewer



二條 麻由子さん (国際関係学部 4年)
私は現在、「静岡2.0」という団体で、地域住民のつながりを強め助け合える地域づくりを目指して活動しています。これからも活動を続けながら、地元の自治会の活動に入っていくなど活動の場所を広げていきたいです。将来は県外勤務の可能性もありますが、いつかは静岡に戻ってきたいと思っています。



兼子 えみさん (国際関係学部 3年)
所属するゼミでは、静岡市の中山間地域とケニアで問題を共有して課題解決を図るという研究活動を行っています。外側から意見を言うのではなく、実際に地域に入って、長い時間をかけて、地元の人と関わることが大切だと、フィールドワークやゼミ活動を通して感じました。これからも地域と関わりを持ちながら、地域を賑やかにしていけたらと思います。



鬼頭 宏学長 略歴

長泉町出身。
1971年、慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程修了。経済学修士。慶應義塾高教諭を経て上智大経済学部講師、助教授、89年から教授。この春から本学学長に就任。専門は経済史、歴史人口学。主な著書に「人口から読む日本の歴史」「2100年、人口3分の1の日本」など。

平成27年度入学式 900名が新たな一歩



新入生代表のこたばを述べる市川さん

平成 27 年度入学式を、4 月 8 日静岡市駿河区のグランシップで開催し、学部・短期大学部・大学院合わせて 900 名の新入生が、夢や希望の実現へ向け、静岡県立大学生としての一歩を踏み出しました。

今年度就任した鬼頭宏学長は式辞で、「みなさんは 50 年後の社会の頼りになる存在であり、未来の社会を創るのは、未来の主人公である皆さん。それぞれの専門領域の学業に勤めて、本来の目的を達成するこ

とを第一目標に、よりよい暮らしを実現するために、自分に何ができるかを考え、地域社会に関わりをもって、若い力を発揮してもらいたい」と激励しました。

本庶佑理事長の挨拶では、「大学は学問をするところであり、学問の進歩とは定説を覆すことである。教科書を盲信するのではなく、すべてのことを批判的に見る目を養い、学問の本質を肌で感じるような勉強法を身につけて欲しい」と新入生への期待の言葉がかけられました。

薬学部の市川祐依さんが新入生を代表し、「将来は薬剤師となって、チーム医療に携わりたい。新入生 900 名はそれぞれ志す分野は違うが、これからの社会の担い手となるため、今日の決意を忘れず日々精進していく」と決意を述べました。

入学式典後には、鬼頭学長による学長 1 時間目の授業が行われ、「地域をつくる・未来をつくる」と題し、専門分野である歴

史人口学の観点から人口減少問題等の日本が抱える課題に触れるとともに、未来の担い手となる新入生への期待を語りました。講義の後にはクラブ・サークル紹介が行われ、チアダンス部、アカベラサークル、ジャズダンス部が、新入生を歓迎して見事なパフォーマンスを披露しました。

あいにくの雨模様でしたが、新入生の顔は晴れやかで、これからの自分の選んだ道で学ぼうとする意欲に溢れていました。



会場前では家族で記念写真を撮る姿が見られました

就職内定率 昨年に続き好調 学部 99.8%を達成

平成 27 年 3 月卒業（修了）者の就職状況は、依然として厳しい雇用情勢が続く中、本学学生達が内定獲得まであきらめずに粘り強く就職活動を行いました。学部生の就職内定率は 99.8%で、全国の平均（96.7%）や県内大学の平均（94.1%）を大きく上回る結果となりました。

大学院修了者の就職内定率は、95.2%で、大学全体の就職内定率は 99.1%でした。

統計：キャリア支援センター

キャリア支援センターでは、企業の採用活動の進行に合わせ、年間 50 種類以上のキャリア形成・就職支援講座や学内企業説明会を開催するとともに、求人開拓員による企業訪問や専門のアドバイザーによる個別相談を実施するなど、きめ細かな支援を行っています。

平成27年3月卒業者の就職状況(平成27年3月31日現在)

	薬学部	食品栄養科学部	国際関係学部	経営情報学部	看護学部	学部計	大学院	合計
就職内定率	100%	100%	99.5%	100%	100%	99.8%	95.2%	99.1%
(前年度)	100%	100%	97.6%	100%	100%	99.1%	97.7%	98.9%

平成27年3月卒業者の主な就職先(平成27年3月31日現在)

薬学部 薬学研究院	第一三共、中外製薬、エーザイ、アステラス製薬、持田製薬、ロート製薬、ツムラ、日本たばこ産業、花王、静岡県立病院機構、静岡県、山梨県
食品栄養科学部 食品栄養環境科学研究科	ハウス食品、三菱食品、アヲハタ、焼津水産化学工業、エスエスケーフーズ、国立病院機構東海北陸ブロック、東京都、静岡県、静岡市
国際関係学部 国際関係学研究科	ヤマハ、ローランドディー、ジー、スター精密、北海道電力、静岡鉄道、鈴与、東京海上日動火災保険、静岡銀行、静岡県、静岡県教員
経営情報学部 経営情報学研究科	ユニチャーム、日本通運、静岡ガス、東京海上日動火災保険、静岡銀行、清水銀行、静岡新聞社・静岡放送、愛知県教員、静岡県、静岡市
看護学部 看護学研究科	静岡県立病院機構、静岡県立静岡がんセンター、静岡赤十字病院、東京警察病院、浜松医科大学医学部附属病院、東海大学医学部附属病院、静岡県

木苗直秀前学長 感謝のついで 最終講義で54年間を振り返る



6年間の任期の取り組みを振り返る木苗前学長

平成 26 年度末をもって退任する木苗直秀前学長への感謝のついでを、平成 27 年 2 月 19 日に開催しました。会場には教職員、在学生の他、卒業生や一般市民約 350 名が集いました。

木苗前学長は、薬学部の前身である静岡薬科大学に入学し、同大学院研究科博士課程を修了後、薬学部と食品栄養科学部の教員として 39 年間、学長として 6 年間務め、学生生活を含め 54 年間本学に在籍しました。

学長最終講義では、学生部長時代に、授業料減免制度や学生表彰制度の創設、開学記念行事の開催、企業からの学生奨学金の充実など、学生支援に取り組んでき

た当時を振り返りました。

2009 年に学長に就任してからは、『個を拓（みが）き、強い絆で知を発信』をスローガンに掲げ、文理融合、全学的な視野を持つことの重要性を常に訴えて、学内外に活躍の場をさらに広げてきたことを紹介しました。生命科学と人文科学の両分野の連携、企業との連携講座の開設、地域結集型集積プロジェクトなど、教育・研究の発展をとおして地域貢献に取り組んだほか、学長杯争奪駅伝大会や、学生と教職員が語り合う「はばたきカフェ」の開催など、教職員・学生が絆を深める場づくりも多く手掛けました。

また、自身の研究テーマでもある緑茶やワ



奥直人前副学長(左)より名誉教授証書を受け取る木苗前学長(右)

サビ等の食品の機能性解明と応用等についても触れ、参加者は熱心に耳を傾けていました。

木苗前学長は、講義の最後に「学士力・研究力の向上、地域社会との連携、国際的通用性を目標に、学生、教員、職員が三位一体で大学改革に取り組み、たゆみなく発展する大学を目指してほしい」とこれからの大学への期待を述べました。

講義終了後には、本学の発展に尽くした木苗前学長へ感謝の意を込めて、名誉教授証書を授与するとともに、前学長を囲んで交流会を催し、本学での思い出を、学生・教職員と和やかに語り合いました。



交流会では木苗前学長への感謝を込めて学生らが歌やダンスを披露しました

学生がネパール大地震被災者支援募金活動



学生ホール前で募金活動をする学生有志

平成 27 年 4 月 25 日の発生からなお余震が続くネパール大地震の被災者支援のため、学内でもネパールからの留学生ケム（本名：ガルブジャ・ケムラジュ）さん、国際関係学部等の学生有志が中心となり、募金活動を行いました。昼休みを使って募金を呼び掛け、多くの学生、教職員が募金に協力しました。今回の募金額は 168,188 円

となり、同じく募金活動を行う、静岡県在住のネパール人の交流団体「ナマステ・ネパールしずおか」の会長を務めるマハラジャン・ナレスさん（本学の卒業生）に、有志を代表して留学生のケムさんから贈呈されました。今後、静岡県全体の募金とともに、ネパール大使館を経由して被災地へ送り届けられます。

ケムさんのコメント

昼食代を削ってまで募金に協力してくれた学生さんもいて、本当に感謝しています。また、国際関係学部の先生方には今回の活動に多大な協力をいただきました。この大学に入学してよかったと思いました。将来、何らかの形で県大や日本社会に恩返しできたらと思っています。



募金をナレス会長に手渡すケムさん(左)

平成27年度開学記念行事を開催



第2部学長講演

今年で24回目となる開学記念行事を4月23日(木)に開催し、学生や教職員が運動会や懇親会などを通じて交流を深め、大学のさらなる発展に向けて決意を新たにしました。

第1部の「運動会」は、冒頭で鬼頭宏学長の挨拶と学生代表らの選手宣誓に始まり、天気にも恵まれグラウンドでの開催になりました。参加者は、赤、青、緑、黄



運動会の綱引き



優勝は赤チーム

色の4グループに分かれて、リレーや綱引きなど熱い戦いが繰り広げられました。今年は、赤色チームが優勝しました。開学記念行事実行委員会委員長である小針進学生部長(国際関係学部教授)が講評を行い、閉幕となりました。

第2部は、谷田キャンパス看護学部棟13411教室で、「新学長と何でも語ろう会」を開催し、鬼頭学長の講演「人口研究から見てきたこと」の後、学長と学生とのパネルディスカッションを行いました。小針進学生部長がコーディネータとなり、パネリストの学生(近江弘規さん、伊達沙月さん、韓叙松さん)やフロアも参加した質疑応答が行われました。

第3部の「はばたきのつどい」は、学生ホールで、多くの教職員、学生の参加をいただき開催しました。今年の「おおとり会賞」の表彰は、静岡県吹奏楽コンクール大学の部で3年連続金賞の成績を収めた「静岡シンフォニックウインズ」が受賞しました。

また、第1部の運動会の表彰やチャリダー(GOLD ROWDIES)、ジャズダンス部のアトラクションが披露され、大いに盛り上がりました。



パネルディスカッション



はばたき賞を受賞したシンフォニックウインズ



学生によるパフォーマンス

なお、今年度の参加者は、次のとおりでした。ご協力ありがとうございました。

単位:人

区分	参加者
第1部 運動会	174
第2部 新学長と何でも語ろう会	104
第3部 はばたきのつどい	355
計	633

*第3部の参加者数は、参加券の販売枚数等による

「安全」「危険」を科学的・定量的に考える「リスク評価」を学ぶイベントを開催



サイエンスピクニック(ブース出展)



サイエンスピクニック(内藤助教講演)



シンポジウム(ディスカッションの様子)



シンポジウム(講演の様子・小野恭子氏)

本学の教員が共同で環境リスク教育に取り組む「静岡リスク評価・管理研究会」(食品栄養科学部環境生命科学科 内藤博敬助教、斎藤貴江子助教、戸敷浩介助教、経営情報学部 上野雄史講師)が、平成27年3月13日にシンポジウム「静岡発の環境リスク教育を!! “安全”と“危険”の伝え方を考える」を主催するとともに、14日・15日には「サイエンスピクニック2015」に出展し、環境に関わる安全や危険の尺度を定量化して考えることの重要性について、一般市民に普及啓発活動を行いました。

13日のシンポジウムには、リスク評価の専門家 小野恭子氏(産業技術総合研究所安全科学研究部門)、リスクコミュニケーター 竹田宜人氏(製品評価技術基盤機構化学物質管理センター)、静岡県環境ふれあい課職員を講師として招き、専門家・行政それぞれの立場から、環境リスク教育の考え

方を講演いただきました。また、会場となった静岡科学館る・く・るの長澤友香館長、科学技術振興機構科学コミュニケーションセンターアソシエイトフェローの関谷翔氏、本学食品栄養科学部環境生命科学科 坂田昌弘教授らがコメンテーターとして参加し、議論を深めました。

当日は、環境教育やリスク教育、リスクコミュニケーションなどに関心がある県内教育関係者、企業、市民団体など様々な参加者が集い、パネルディスカッションでは、講師やコメンテーターと参加者が忌憚なく意見交換を行う場も設け、活発な議論が展開されました。

静岡県内外で市民活動に取り組む団体が、子どもたちが自然や科学を学ぶ体験型ブースを出展したサイエンスピクニックでは、「安全ってなんだろう?」と題して、サメやクラゲなど海洋生物のシールを用いてリスクマップを作成する「海洋生物のリスク」や、不

安定なサイコロを積み上げた個数で順位を競う「サイコロ積みランキング」といったゲームを発表し、子どもたちが安全や危険について学べる場を提供しました。ブースは子どもたちに大人気で、特に「サイコロ積みランキング」はリピーターが続出するほど盛況でした。他団体の関係者からも好評を得るなど、社会・地域貢献に取り組む県内外の団体との交流を育む良い機会となりました。

シンポジウム開催とブース出展に協力した学生(飯山莉恵さん(経1)、山本幸佳さん(食1)、松谷優佳里さん(食1)※学年は当時)は、「シンポジウムで“レギュラリーサイエンス”という文理融合型の科学分野に初めて触れて、自らの専門分野をベースとしながら、異分野に見聞を広げる大切さを学んだ」「リスクの考え方を遊びの中で伝える教育ツールに興味を持ち、今後もこのようなイベントに、自分達が主体となって取り組みたい」とそれぞれが発見を得たようでした。



地域・産学連携

本学が取り組む地域貢献、産学民官連携活動による研究成果やイベント等の情報をご紹介します。

「地(知)の拠点整備事業」キックオフ・セミナー開催！ ～知事、牧之原市長、学長らが事業への取り組みと期待を語る～

文部科学省の平成26年度「地(知)の拠点整備事業(大学COC:Center of Community 事業)」に、本学のプログラム『ふじのくに「からだ・ところ・地域」の健康を担う人材育成拠点』が採択されました。

同プログラムは、人間一人ひとりの「からだ」と「ところ」に重点を置いた従来の健康の概念に、「地域」の健康を組み入れ、健康長寿社会づくりを図るために、本学と自治体が連携して、次世代を担う優れた地域貢献ができる人材の育成を目指すものです。プログラムが今年度から本格始動するのを前に、事業への取り組みを地域の方々に広く知ってもらうため、連携自治体の首長を招いて、平成27年3月17日にキックオフ・セミナーを開催しました。

第1部「大学COCキックオフ」パネルディスカッション



人材育成の連携について討論する木苗直秀前学長(左)と川勝平太知事(中央)と西原茂樹牧之原市長

当日は、本学教職員・学生と、連携自治体関係者、一般の方合わせて258名の参加者が集い、会場となった谷田キャンパス小講堂は満席となりました。

来賓には、文部科学省高等教育局大学振興課長 塩見みづ枝氏、連携自治体から、川勝平太静岡県知事、西原茂樹牧之原市長にご列席いただくとともに、鬼頭宏上智大学教授(現:本学学長)にもご参加いただき、盛会の運びとなりました。

第一部では、パネルディスカッションに先立ち、昨年度から既に開講している「しずおか学」*の拡大等について、木苗前学長が紹介しました。続いて、木苗前学長と川勝平太知事、西原茂樹市長の3名が登場してパネルディスカッションを行い、「健康長寿」「地域づくり」「未来づくり」

を支えるための人材をどのように育成すべきかについて様々な提案と議論がなされました。

川勝知事からは、「県内には第1～3次産業がバランス良くそろっている。学問を実践するためのテキストは本の中にはなく静岡の大地にある」と、本事業への期待と力強いエールをいただきました。また、西原牧之原市長からは、住民が話し

合い、共感を大切にしながらまちづくりを行う「男女協働サロン」の取り組みが紹介されました。



会場は満員の大盛況でした



文部科学省高等教育局大学振興課長 塩見みづ枝氏

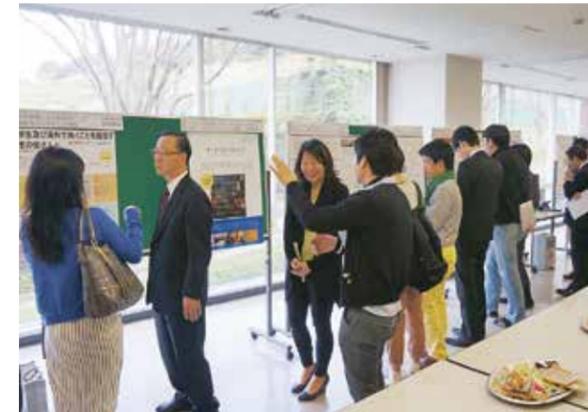
*「しずおか学」は、富士山の自然やお茶の文化、防災など、静岡に特化した地域の文化や産業を学び、地域に貢献するマインドの醸成を目的としており、全学共通科目として今年度は19科目を開講しています。

第2部 COC事業研究の成果発表・情報交換会

第2部は学生ホールに場を移し、平成26年度COC事業担当者である教員による研究成果報告会では、学生サークル・

団体が現在取り組む地域貢献活動を紹介するとともに、取り組みが本格始動する27年度に向けて、学生・教職員を中心

に参加者が情報交換会を行いました。第3部として、地域連携コーディネータによるワークショップを開催しました。



第2部では活発な議論が繰り広げられました



第3部ではワークショップを開催しました

「ふじのくに」みらい共育センターを開設

事業活動拠点が開設

平成26年度のCOC事業採択に伴い、本事業の活動拠点となる「ふじのくに」みらい共育センターを学内に開設するとともに、各自治体との連携が具体化し、4月から牧之原市榛原庁舎において牧之原みらい交流サテライトの運用を開始しました。

また、6月には静岡市内で静岡みらい交流サテライトを開設する予定です。各サテライトには地域連携コーディネータが着任し、ワークショップの企画等を行っています。

牧之原みらい交流サテライトでは、牧之原市の良さを学生が実際に訪れ体感する「地元学」を開始しました。自治体と大学の連携により、学生が地域に出てフィールドワークを行っていきます。

同サテライトでは、7月12日にキックオフイベントを開催します。

静岡みらい交流サテライトでは、8月にキックオフイベントを開催する予定です。

両サテライトが、牧之原市、静岡市のそれぞれの地域における学生の活動拠点となるように事業を展開していきます。



ネットワーク力を備えた専門職と地域づくり人材です。薬剤、看護、栄養、福祉、歯科衛生の各領域における先導的な専門職人材の育成は、本学の強みであり、地(知)の拠点としての使命です。多職種連携演習やみらい交流サテライトにおけるワークショップの実践を通して、多分野協働のしぐみを動かすリーダー人材の育成に取り組みます。超高齢社会を支え、健康長寿文化の形成に貢献するチームケア牽引人材の育成に、是非ともご協力下さい。

事業推進責任者挨拶

「ふじのくに」みらい共育センター長
健康づくりプロジェクトWGリーダー
食品栄養科学部教授 学部長
合田 敏尚

健康寿命のさらなる延伸を目指す「ふじのくに」のからだ・ところ・地域の健康を牽引するのは、次世代を担うコミュ

本学COC事業の取り組みの詳細や、関連のイベント・セミナー情報については下記の特設サイトよりご覧いただけます。



<http://www.coc.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

学生の日々

学生たちのサークル情報・課外活動をご紹介します。



『「知りたい、伝えたい」を形にする』 ——今年から走り出す大学テレビ

静岡県立大学テレビ制作委員会 チーフディレクター(代表)
長島弘志(経営情報イノベーション研究科1年)

静岡県立大学テレビ?

静岡県立大学テレビ(以下県大TV)は、学内外の人に本学で行われるイベント、研究、サークル活動そして防災情報の周知を図るため、ICTイノベーション研究センターによって開設されたテレビチャンネルです。YouTubeに動画をアップロードすることで、インターネットを通じて全世界の人が視聴することができるかたちになっています。公式ウェブサイトでは、県大TVが独自に制作した番組だけでなく、本学関係者がYouTubeで公開している動画も視聴することもできます。

そして、私たち県大TV制作委員会は、番組制作や広報を行うことで県大TVの運営をサポートすることを目的に設立された学生組織です。正式な活動開始1年目ということで、組織としてはまだまだ未熟です。メンバー全員で撮影や編集技術を勉強し、より良い番組づくりに取り組んでいます。

確かなクオリティで

『「知りたい、伝えたい」を形にする』

受験生や留学を考えている海外の方はもっと県大のことを知りたいと思っているのではないのでしょうか。他の県大生や教員がどんなことをやっているのか、知らない人は意外にも多くいます。自分たちの活動をもっと多くの人に知ってもらいたい学生だっているはず。私たちが番組をつくることで、そんな人たちの「知りたい・伝えたい」という思いを形にしていけたらと思っています。

番組を多くの人に見てもらえるよう、私たちはホームビデオ程度のクオリティでは妥協しません。プロレベルの機材を使いこなし、確かなクオリティをもって

「知りたい、伝えたい」を形にしていきます。

みなさんは、県大TVでどんな番組があったら良いですか?

学生、教職員、保護者、様々な目線からの意見をお待ちしています。まずは下記のURLから、県大TVの動画を観てみてください。そして、何かあれば県大TVへメールを。製作依頼、どんどんお待ちしております。

そして、県大TV制作委員会はいつでもメンバーを募集しています。企画、取材、撮影、編集、広報、様々な仕事があなを待っています。私たちと一緒に、映像で県大を盛り上げませんか?

公式ウェブサイト:

<http://ustv.u-shizuoka-ken.ac.jp>

県大TV制作委員会: ustvpp@groundnode.com



PICK UP

ホームステイレポート

ロシアからの交換留学生を受け入れている
ホストファミリーのご家族にお話をうかがいます。

ホストファミリーの方へのインタビュー全文と
留学生のコメントは公式サイトに掲載しています。
▶トップページから「国際交流」ページ

▶ホストファミリー:大石様

留学生:アイダ・サルギジャンさん



これまで何人の留学生を受け入れて されましたか。

20~30人くらいでしょうか。子供たちが家を出たのを機会に、15~6年前からホストファミリーを始めました。留学生だけでなく、静岡に住む息子さんに会い、オーストラリアのご両親が滞在したこともあります。

異なる国や文化の方との生活に不安は なかったですか。

実際に来るまでは留学生がどんな方なの

か不安もありますが、滞在中お互いに慣れてくるので、楽しみの方が大きいです。また、彼らは日本のことをよく知っていて、こちらが彼らの国のことを知らないことが多く恥ずかしいです。過去には、宗教上の理由で週3日程は肉や魚を食べられず、豆腐と醤油も苦手という方が6カ月間滞在しましたが、帰国後も、彼女から誘いを受けて何度も国を訪れましたし、東日本大震災のときには避難してくるよう連絡をもらい、嬉しく思いました。仕事で来日した際に再び我が家に来てくれた方もいます。

ホストファミリーに関心がある方に アドバイスをお願いします。

ぜひ多くの方にホストファミリーを経験していただきたいです。日本人はとかく人を家に招く=もてなさなければ、と思いがちですが、私はありのままの日本の生活を見てもらいたいと思っています。ですので、家族の一員としてできることをしてあげようとしています。もちろん習慣など異なる面もありますが、人として同じということを実感します。

ロシアからの留学生アイダさんとの 生活はいかがですか。

彼女は肉を食べない方なので、食事は大変ですが、明るい性格ですし、色々なことに積極的なので、次第に慣れてくると思います。滞在中は、一緒に京都や歌舞伎に行く予定です。



▶ホストファミリー:氷見様

留学生:アナスタシア・サフォノヴァさん



ロシアからの留学生アナスタシアさん との生活はいかがですか。

彼女はとても真面目で優しく、日本語を一生懸命話そうと頑張っているのが伝わってきます。お箸の使い方が上手なのは驚きました。日本の建物や歴史に興味があるので、久能山東照宮を訪れた際には、建物や奉納神楽に感動していました。過去に受け入れたフィリピン人の留学生が訪れて、私たちが含め3カ国の文化の違いなど夜遅くまで話に花が咲きました。

などを知ることができますし、私たち自身が日本の歴史や文化により興味を持つようになりました。一緒に学ぶことも多くあらためて日本の素晴らしいところを発見できます。

ホストファミリーに関心がある方に ++++ アドバイスをお願いします。

私は常にゲストではなく家族として接しています。家族が1人増えるのは幸せなことです。多少の不安は正直ありますが、些細な事でも相手の話を聞き、話し合うことで必ず分かり合えます。他の国の生活や文化のことを直接聞けるのも興味深いことだし、言語もちょっと学習できます。

ホストファミリーを始めたのは。

8年前になります。私も含め、妻、母ともに留学経験があります。ニュージーランドへ留学した際、最初は英語の授業についていけず、文化の違いなどもあり苦労する私を支えてくれたのがホストファミリーでした。いつかは留学生を受け入れる側になりたいと思っていました。

留学生を受け入れることで感じる変化 はありますか。

普段からおしゃべり好きの私たちですが、家族が1人増えることで一層会話が弾み、彼らを中心に家族がよりまとまってくるように感じます。また、彼らの母国の生活や文化



短期交換留学生のホストファミリーを募集しています

本学では、ロシア・フィリピン・ドイツ・フランス・トルコなど海外の協定校から交換留学生を受け入れており、そのうち数名がホームステイをしています。国際交流に関心のある方、ホストファミリーの募集・登録に関する詳細について知りたい方は、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ

事務局 教育研究推進部 企画調整室
〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1

tel 054-264-5158

E-mail tyous@u-shizuoka-ken.ac.jp

図書館 だより

平成27年度から、看護学部・同研究科が、谷田キャンパス、小鹿キャンパスの2キャンパス制になったため、図書館は「谷田図書館」「小鹿図書館」の通称となります。

小鹿キャンパスに新看護学部棟が完成したことに伴い、従来の短期大学部附属図書館は、県立大学附属図書館小鹿図書館と施設を共用し、施設名の通称が小鹿図書館となります。谷田キャンパスにおける附属図書館を「谷田図書館」、小鹿キャンパスにおける図書館を「小鹿図書館」と呼んでいたが、両図書館の資料や情報がスムーズに行き交うよう、両図書館の連携協力

関係をさらに強化していきます。また、昨年度末に、看護教育に関連した図書や雑誌等を小鹿図書館へ移動し、小鹿図書館内の設備を整備しました。貸出冊数と貸出期間は、右記のとおり2館共通にし、貸出冊数を2館の合計としました。ご利用をお待ちしております。

谷田図書館・小鹿図書館の貸出冊数と貸出期間

区分	貸出冊数	貸出期間
学部生	15冊以内	2週間以内
大学院生	20冊以内	4週間以内
教職員	制限なし	4週間以内

教員・学生の受賞

各受賞の詳細については本学公式サイトのお知らせ&トピックスからご覧いただけます。

教員

所属	受賞者名	受賞名	受賞年月
食品栄養科学部	佐久間 理英 助教	第18回日本病態栄養学会年次学術集会 会長賞（優秀演題賞）	2015年1月
薬学部	高橋 忠伸 講師	東京バイオマーカー・イノベーション技術研究組合 (Tokyo Biomarker Innovation Research Association: TOBIRA) 第3回 TOBIRA 奨励賞	2015年2月
薬学部	浅川 倫宏 助教	第30回茶学術研究会講演会 優秀ポスター賞	2015年3月
食品栄養科学部	島村 裕子 助教	第30回茶学術研究会講演会 ポスター賞	2015年3月
食品栄養科学部	三好 規之 助教	平成27年度日本農芸化学会農芸化学 奨励賞	2015年3月

学生

所属	受賞者名	受賞名	受賞年月
薬食生命科学総合学府	趙 暁旭	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア(A&S)2014 ポスター発表最優秀賞	2014年11月
薬食生命科学総合学府	今西 稜太郎 管 敬 呉 婷婷 中山 勇人 チャン・バン・マイ	富士山麓アカデミック&サイエンスフェア(A&S)2014 ポスター発表優秀賞	2014年11月
経営情報学部	赤池 由樹	第12回情報学ワークショップ(WiNF2014) デモ・ポスター賞	2014年11月
薬食生命科学総合学府	平井 央子	第16回静岡ライフサイエンスシンポジウム ポスター賞 最優秀賞	2015年3月
薬食生命科学総合学府	紅林 佑希	2014年度糖鎖科学中部拠点 奨励賞	2015年3月
薬学部	諸星 晴香	第30回茶学術研究会講演会 奨励賞	2015年3月
薬食生命科学総合学府	尾崎 順哉	第30回茶学術研究会講演会 ポスター賞	2015年3月
経営情報学部	藤野 まり菜	情報処理学会 第77回全国大会 奨励賞	2015年3月
経営情報学部	鈴木 優伽		
経営情報イノベーション研究科	山岸 祐己		
薬学部	有泉 早紀 関田 理沙 後藤 かの子 松浦 寛明 長瀬 浩揮	日本薬学会第135年会優秀発表賞	2015年3月
薬食生命科学総合学府	井出 貴文 中野 達基 紅林 佑希 鈴木 寛貴 大竹 啓斗	第12回アジア栄養学会議(12th Asian Congress of Nutrition) Young Investigator Award	2015年5月
薬食生命科学総合学府 食品栄養科学専攻	佐藤 友紀		

※学生の所属は受賞当時のものです。

私の一冊の本

紹介者 国際関係学部・国際言語文化学科講師 橋川 裕之
紹介図書 『レオナルド・ダ・ヴィンチ 絵画の書』



訳者：斎藤 泰弘
(京都大学名誉教授)
出版社：岩波書店
請求記号：720.4/V75
ISBN：978-4-00-025663-6

レオナルド・ダ・ヴィンチ(1452-1519年)の主著ともいえるべき書物の全訳がついにわが国でも刊行されました。レオナルドと聞けば多くの人は「モナ・リザ」を始めとする数々の印象的な絵画を思い浮かべるでしょうが、これは絵画ではなく書物です。ただし、彼が生前に刊行したものではなく、晩年の愛弟子フランチェスコ・メルツィがレオナルドの死後、彼の膨大な手稿の中から絵画に関連する文章を寄せ集め、印刷本としての刊行を希望しつつも諸般

の事情から果たせず、19世紀に入ってから刊行されたという、いわくつきの書物です。レオナルドは生前からフィレンツェ出身の天才画家として注目を集め、その清新な作品群は今日にいたるまで非常に高い評価を受けています。とくに「モナ・リザ」を展示するルーブル美術館の一室は毎日、何千、何万もの巡礼者をその前に引き寄せる巡礼スポットのような観を呈しています。

そうした人気と評価にもかかわらず、レオナルドの『絵画の書』は何世紀もの間、手稿のままイタリアの図書館の片隅に放置されていたのです。そうってしまった理由は、本書の訳者、斎藤泰弘氏が「解説」で指摘するように、本書の異教的な性格にあると思われる。たとえば、レオナルドは第8章において、明らかに聖女マリアを「女神」と同一視する記述を残しています。たしかにキリスト教徒がマリアを神の子イエスの母として、あたかも女神であるかのように崇める現象が見られるとしても、キリスト教の教義としてはマリアはあくまで人間であり、彼女を「女神」と呼ぶことは正統教義からの明白な逸脱となりま

す。キリスト教は三位一体の一神教であり、多神教ではないからです。また彼は第33章において「神や霊魂の本質」に関する議論を真の科学とは異なる「混乱した科学」と表現しています。つまり、レオナルドは古代以来、連続と続いてきたキリスト教神学を意味のない科学として切って捨てるかのような評価を下しているのです。こうした記述を読む際に忘れてはならないのは、レオナルドが、いまだキリスト教の価値観が強固かつ支配的であり、正統な教義や慣習に反すると見なされた人々が異端者として厳しく非難される社会に生きていた、ということです。こうした記述は、レオナルドの自由な思考と異端的傾向をうかがわせる貴重な証拠といえます。

レオナルドは日々何を考えながら創作に向かっていたのでしょうか。彼は自らを、絵画を、この世界をどのように理解していたのでしょうか。『絵画の書』は一人の天才の心のひだに分け入るための第一級のテキストです。レオナルド、そしてイタリア・ルネサンスに興味がある方にはぜひとも読んでほしい一冊です。



フーマネラボの 体に優しいヘルシーメニュー ～第一弾～

1食分の熱量・栄養価

エネルギー652 kcal
たんぱく質	*ごはん1杯(180g)をきむ28.0 g
脂質15.0 g
炭水化物93.9 g
食塩2.5 g

献立のポイント

梅雨が始まり、暑さも増ってきて食欲が落ちがちではありませんか?そんな時には酸味・香りを生かした食欲増進メニューがオススメです!!

作り方(4人分)

① 鯖の照り焼き ししとう

- ・鯖 4切れ
- ・ししとう 4本
- ・焼き油 適量
- ・つけ汁
 - 濃口醤油 (大)1・1/2
 - みりん (大)2
 - 酒 (大)2

- 鯖をつけ汁に漬ける。(20分)
- 鯖の水気をとり、中火に熱したフライパンで両面を焼く。
- 鯖に火が通ってきたら、ししとうと一緒に焼く。
- 鯖につけ汁の残りを絡め、照りがついてきたら取り出す。
- 皿に盛り、ししとうを添える。

② 長芋とモロヘイヤのわさび酢和え

- ・長芋 130g
- ・モロヘイヤ 40g
- ・刻みのり 適量
- ・わさび酢
 - 濃口醤油 (大)1強
 - 酢 (大)1強
 - 上白糖 (小)2
 - 練りわさび 3g

- 長芋の皮をむき、拍子切りにする。モロヘイヤを4cm程度に切る。
- たっぷりの水に1%の食塩(分量外)を加えて沸かし、モロヘイヤをサッとゆでて流水にとる。
- ①と、水気をとった②をわさび酢であえる。
- 皿に盛り付け、刻みのりをのせる。

③ 蒸しなすのごま味噌和え

- ・なす 200g
- ・味噌だれ
 - 合わせ味噌 (小)2
 - 上白糖 (小)2
 - 濃口醤油 (小)1/3
 - 酒 (小)1強
 - だし汁 (小)2
 - 練りごま (小)4

- なすのヘタをとり、縦に8等分、横に半分に切る。
- 耐熱皿に入れ、電子レンジ(600W)で3分程加熱する。(熱いので注意!)
- 器になすを並べ、味噌タレをかける。

④ むら雲汁 おろし生姜

- ・混合だし 550 ml
- ・片栗粉 (小)2強
- ・水 適量
- ・卵 1個
- ・食塩 (小)1弱
- ・薄口醤油 (小)1/2
- ・生姜汁 (小)4

- 混合だし(下記参照)を沸かし、塩と醤油で味を整える。
- 水溶性片栗粉を混ぜながら1に溶かし、とろみをつける。
- 卵をときほぐし、菜箸をつたわせながら汁に落とし、卵に火が通ったら火を止める。
- 生姜汁をあらかじめ椀に入れておき、熱い③を注ぐ。

⑤ 抹茶みるくかん

- ・牛乳 300ml
- ・水 30ml
- ・粉寒天 2.5g
- ・グラニュー糖 (大)4
- ・抹茶 1g
- ・熱湯 適量

- 水と粉寒天を合わせておく。
- 1と牛乳・グラニュー糖を鍋に入れて火にかける。
- かき混ぜながら加熱し、沸騰しないよう、表面がふつふつしてきたら弱火にする。(2分)
- 抹茶を少量の熱湯で溶き、3に加えて火を止める。
- 器にそそぎ、冷蔵庫で冷やし固める。

美味しい基本!～混合だしの取り方～

- ・水 1L
- ・昆布 10g
- ・かつお節 20g

- 昆布と水を鍋に入れ、20分おく。
- 鍋を火にかけ、沸騰直前に昆布を取り出す。
- かつお節を加え、沸いたら火を止める。
- かつお節が底に沈んだら、さらした後はペーパータオル等で濾す。

※(大)=大さじ(15ml) (小)=小さじ(5ml)

教員人事

◆採用 平成27年4月1日付

窪田 辰政	薬学部 薬学科	准教授
川崎 洋平	薬学部 薬学科	講師
中西 勝宏	薬学部 薬科学科	助教
水野 初	薬学部 薬学科	助教
石塚 典子	食品栄養科学部 栄養生命科学科	助教
中野 祥吾	食品栄養科学部 食品生命科学科	助教
細川 光洋	国際関係学部 国際言語文化学科	教授
島田 剛	国際関係学部 国際関係学科	准教授
須田 孝司	国際関係学部 国際言語文化学科	准教授
竹下 誠二郎	経営情報学部 経営情報学科	教授
沖本 まどか	経営情報学部 経営情報学科	助教
井上 健一郎	看護学部 看護学科	教授
掛田 崇寛	看護学部 看護学科	教授
山田 紋子	看護学部 看護学科	教授
中川 有加	看護学部 看護学科	准教授
佐藤 瑠美	看護学部 看護学科	講師
福島 恭子	看護学部 看護学科	講師
天野 歌子	看護学部 看護学科	助教
加藤 貴子	看護学部 看護学科	助教
三崎 健太郎	看護学部 看護学科	助教
望月 友美子	看護学部 看護学科	助教
大内 仁志	薬学部 薬学科	特任助教
大橋 雅生	薬学部 薬学科	特任助教
平山 裕一郎	薬学部 薬学科	特任助教
坪本 篤朗	大学院国際関係学研究所	特任教授
式守 晴子	看護学部 看護学科	特任教授
ケネス・ヨホ	言語コミュニケーション研究センター	特任講師

◆採用 平成27年6月1日付

原 清敬	食品栄養科学部 環境生命科学科	准教授
大熊 富季子	言語コミュニケーション研究センター	特任講師

◆昇任 平成27年4月1日付

伊吹 裕子	食品栄養科学部 環境生命科学科	教授
谷 晃	食品栄養科学部 環境生命科学科	教授
東野 定律	経営情報学部 経営情報学科	准教授
国保 祥子	経営情報学部 経営情報学科	講師
玉野 春南	薬学部 薬科学科	特任講師

◆昇任 平成27年6月1日付

高橋 忠伸	薬学部 薬学科	准教授
-------	---------	-----

◆退職 平成27年3月31日付

大石 哲夫	薬学部 薬学科	教授
石田 均司	薬学部 薬学科	講師
室谷 哲	国際関係学部 国際言語文化学科	教授
坪本 篤朗	大学院国際関係学研究所	教授
大島 寛史	食品栄養科学部 栄養生命科学科	教授
高柴 慎治	国際関係学部 国際言語文化学科	教授
式守 晴子	看護学部 看護学科	教授
根本 清光	薬学部 薬学科	准教授
井之上 浩一	薬学部 薬学科	講師
海野 雄加	大学院薬学研究院創薬探索センター	助教
丹治 健一	食品栄養科学部 食品生命科学科	教授
石井 剛志	食品栄養科学部 食品生命科学科	助教
井上 広子	食品栄養科学部 栄養生命科学科	助教
塩澤 竜志	食品栄養科学部 環境生命科学科	助教
本田 悦朗	国際関係学部 国際関係学科	教授
本江 朝美	看護学部 看護学科	教授
長谷川喜代美	看護学部 看護学科	准教授
水野 暢子	看護学部 看護学科	准教授
江口 晶子	看護学部 看護学科	助教
高橋 智子	看護学部 看護学科	助教
ジェラルディン・ノリス	言語コミュニケーション研究センター	特任講師
ファン・ジェリ	言語コミュニケーション研究センター	特任講師
エリック・レンハート	言語コミュニケーション研究センター	特任講師
ケント・ローズ	言語コミュニケーション研究センター	特任講師
階戸 陽太	言語コミュニケーション研究センター	特任講師
坂口 真人	大学院食品栄養環境科学研究所	特任教授
出川 雅邦	地域連携推進本部	特任教授

●次号130号は2015年10月1日発行の予定です。



ご意見・情報をお寄せください。

記事に関するご意見・ご感想、今後取り上げてほしいテーマなど、ご要望をお待ちしています。また、本学の学生、教職員の教育・研究活動のほか、ご卒業生などに関連する情報もお寄せください。今後の企画の参考にさせていただきます。

profile 食品栄養科学部フードマネジメント研究室

私たちのラボでは、栄養学の知見を実践に生かし、人々に望ましい食環境を提供するため、中食や外食企業に働きかけて、フードシステムを介した「食環境整備」の方法を探索しています。機能性を有する食品の選択や組み合わせパターンを用いた安全な食事メニューを調製し、官能評価、ヒト介入試験による評価、商品としての消費者満足度の検討等を行っています。





公認 古庄自動車学校

2015年
4月1日水~6月30日火まで

学生応援 キャンペーン!!

期間中の入校で
TDLパスポートがペアでもらえる!!

※普通車が対象、限定解除は対象外です ※他の割引との併用不可

普通車(免なし・原付所持)

AT 税抜 271,000円 税込 292,680円

MT 税抜 283,000円 税込 305,640円

※非課税仮免手数料2,800円がかかります

古庄は
特典がいっぱい

夜間料金無料

技能オーバー無制限保証

再検定料一切不要

優先予約で短期取得可

免許は取ったけどしばらく
乗ってないから運転が不安で...

卒業生特典
ペーパードライバー講習
1時間無料

※普通車のみ：2・3・8月を除く

公認 古庄自動車学校 0120-155-168

静岡市葵区古庄3丁目11番15号 URL <http://www.flushyou.co.jp> Mail main@flushyou.co.jp

【基本料金にふくまれるもの】入所料、教科書代、適性検査料、規定学科教習料、規定技能教習料、効果測定料、修了検定料、卒業検定料、高速道路通行料、写真代、卒業証明書交付料に係るすべての金額及び消費税※古庄自動車学校では基本的には高速教習を実車走行で実施。【別途料金の案内】[予約キャンセル料]本体価格1時間あたり1,000円(8%税込価格1,080円)※当日分の予約をキャンセルする場合[自己都合自由教習]本体価格1時間あたり4,000円(8%税込価格4,320円)【途中解約の場合】お客様の都合により退校する場合は、同校の規定により未受講学科教習料、未受講技能教習料、未受講検定料などは返金されません。
※古庄自動車学校の個人情報の取り扱いについてはホームページ内の個人情報保護ポリシーを参照。



広報誌「はばたき」に広告を掲載する事業者を募集しています。

広告掲載については本学公式サイト「企業・一般の方へ」のページをご覧ください。

URL <http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/>